

アジ研図書館は調査・研究者の宝

吉田昌夫

私はアジ研を一九九一年三月に退任し、その後ほぼ二〇年にわたり、いくつかの大学で教える経験を持った。その前は三〇年間アジ研の職員としてアフリカ研究を本業としていた。アジ研をやめた後も、アジ研図書館は私の研究活動にとって、なくてはならない存在であった。

アジ研図書館の強みは、発展途上国に関する経済、社会、政治、歴史など、社会科学系の図書や定期刊行物を、現地発行のものも含めて、網羅的に収集し、整理し、閲覧に供していることで、日本の著名な大学の図書館も太刀打ちできない広範囲でアップ・ツー・デートな収集ができていことであろう。そして現在、千葉市にあるアジ研図書館のなかで、開架式のため本を手にとって内容を確認してから借り出して、館内で読むことが出来る（賛助会員には館外貸し出しも可能）という、私のような本の現物を見てから、論文書きの資料を見つけるタイプの人間には、大変親切な閲覧方式をとっていることが貴重である。もちろん現代の図書館の機能として、このような発掘型の研究者だけを相手にしているだけでは不十分である。昔はアルファベット順か対象項目別に並べられたカードを繰って資料を探していたが、いまではまず館内にあるコンピュータでOPACの検索をするという、どこの図書館でもおこなえるようになった方法が、ずいぶん前から使えるようになっていた。

また、自分が探している資料がどの図書館に所蔵されているかを知るとき、目録所在情報サービスNACSIS-WebCat[®]、研究者にとって、抜群に便利なシステムである。私にとって、大学などが所有しているアフリカ関係の図書を探し当てることは、なかなか困難である。従ってNACSISを開いて、その探している図書の所蔵場所としてアジ研図書館があたり断然多く、さすがアジ研だと思うことが多い。

アフリカだけでなく、アジア、中東、中南米の研究者も、このようなアジ研図書館に恩恵を蒙っている人は多いであろう。ただアジ研が千葉市に移ってから、東京都心から遠いため、利用者が減っているという声を聞く。この対策として、都心の六本のJETRO本部にある図書閲覧室内に、アジ研専用の小さい閲覧室を設けてあるが、その存在を知る人が少ないせいか、あまり使われていないように見受けられる。アジ研の蔵書という宝を持ちぐされにさせないためにも、この閲覧室にもう少し便利な機能を与えられないだろうか？ せめて新着図書あるいはそのリストをこの閲覧室に一定期間備えて、JETRO本部図書館の利用者に気付かせてあげれば、一般の利用者もアジ研の宝を知ることになるように思う。

（よしだ まさお／日本福祉大学大学院教授）